

議 事 録

(令和5年度 第1回井原市総合教育会議)

日 時 令和6年2月5日(月)

10時00分～11時30分

場 所 市役所5階 501・502会議室

出席者 井原市 大舌 勲市長
井原市教育委員会 伊藤祐二郎教育長、藤井秀彦教育長職務代理
奥田隆夫教育委員、服部教弘教育委員、西田友美教育委員

【事例発表】 井原市立高等学校 小林校長、
芳井中学校 井元校長、芳井小学校 佐藤校長

【事務局】 総合政策部 安東総合政策部長
総務部 藤原総務部長
総務課 西村総務部次長、西本課長補佐
教育委員会教育総務課 唐木教育次長、岡崎課長補佐
〃 学校教育課 米本課長
〃 生涯学習課 藤井参事

1 開会

<総務部次長>

ただいまから、令和5年度第1回井原市総合教育会議を開会いたします。

それでは開会にあたりまして大舌市長からごあいさつをよろしく願いいたします。

はい。

2 市長あいさつ

<市長>

おはようございます。

今日は令和5年度第1回の総合教育会議ということで、お忙しい中ご出席ありがとうございます。

先週の週末には様々な事業が行われ、スポーツでは、Vリーグの試合が2日間、井原体育館で、素晴らしいプロスポーツを観戦できたということで大変嬉しく思います。

また昨日はまち・ひとフェスタが開催され、皆様方にも、関わっていただきまして本当にありがとうございました。これからもしっかりと今のまちを作っていく大人たちと、将来のまちを作ってくれる子どもたちが一緒になって、学び、意見を言い合える機会が増えればよいなと思った次第であります。

本日もどうぞよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

3 議 事

<総務部次長>

(配布資料確認)

それでは、議事に入らせていただきます。

議事の進行につきましては、要綱の規定に従い、大舌市長をお願いいたします。

(1) 学校運営協議会の取り組み状況について

①導入状況及び予定について

<市長>

それでは(1)学校運営協議会の取り組み状況についての①導入状況および予定について、学校教育課から説明をお願いいたします。

<学校教育課長>

それではお手元の資料をご覧ください。

井原市コミュニティスクール導入状況および予定ということで、令和4年度に井原市立高等学校の方で導入しております。

令和5年度導入校は、高屋小学校、西江原小学校、野上小学校芳井小・中学校です。

なお芳井小中学校につきましては小中合同での学校運営協議会を設置しています。

それから来年度の令和6年度導入予定校は、大江小学校、稲倉小学校、県主小学校、木之子小学校、青野小学校、井原小学校、出部小学校、美星小中学校、木之子中学校、井原中学校です。

なお、美星小・中学校につきましては芳井小・中学校と同様に、小中合同で学校運営協議会を設置する予定です。

令和7年度導入予定校は、荏原小学校、高屋中学校です。

令和7年度までに井原市内の全小・中学校においてコミュニティスクールの導入を完了する予定です。

説明は以上です。

<市長>

皆さまから何かご意見ご質問がございますでしょうか。

なければ私の方から。なぜ令和6年度で全部できないのですか。

<学校教育課長>

令和7年度に導入を予定している荏原小学校と高屋中学校におきましては、今年度校長が転任してきた学校で、コミュニティスクール導入に関しましては、やはり地域との連携という視点が大変重要になってきますので、両校の校長が地域のことをよく知った上で導入したいという要望がありまして、来年度もう1年しっかり地域との連携を深めた上で、令和7年度に導入の予定としています。

<市長>

皆さまよろしいでしょうか。

②井原市立高等学校での事例について

<市長>

それでは続いて②井原市立高等学校での事例について、市立高校小林校長先生からお願いいたします。

<井原市立高等学校小林校長（以下、市立高校長）>

市立高校の取り組みについて説明をさせていただきます。

皆さまもご存じのように高等学校は、学習指導要領に基づいて運営をするのですが、今回の改定は平成30年で、このときの改定の柱が、より良い学校教育が良い地域を作るといふ、学校と地域が共有をすることで、学校の教育を進めていくことが最初に書かれています。

学校と地域がそれぞれ車の両輪で教育をしているという理想形というのが井原市では今できていて、我々は本当にありがたいなと思っているところです。この改定学習指導要領移っていくのにすごく時間がかかりまして、高校が実際にこの新しいものに移ったのがちょうど令和4年で、タイミングよく学校運営協議会に最初に取り組んだところです。

コミュニティスクールについての細かいことについては配布資料の表に、その裏に今年度ご協力いただいた委員の方を記載しております。

市高通信の資料の方で、取り組みを大体わかるようにまとめておりますので、これで説明させていただきたいと思っております。

6月1日発行の25号を見ていただきたいのですが、市立高校にはいろいろな背景を持った生徒が入学してまいります。4年間で自分の未来を切り開く場にしていきたいという考えが市立高校の中心的な考えです。市立高校のグランドデザインを載せておりますが、育てたい生徒像として「強く・優しく・誠実」を掲げています。これはいわゆる非認知能力にあたる部分です。

今回の学習指導要領では、大きな三つの柱がございまして、教科書で教える知識、考えて判断する思考力と、もう一つの一番大事な柱として人間性というものを教えなさいということになっています。

ところが、どの学校も人間性を教えるというところは具体性がなく、非常に苦しんでいます。その部分を市立高校では、強く・優しく・誠実さの「強く」というのは自分のために強いということで、「優しく」というのは、他者のために優しく、それから社会と自分の関係の中でどういう資質が必要かという「誠実さ」で、この非認知能力の部分をさらに12の資質・能力にきちんと分けて、位置づけをしております。

市立高校では、全ての行事の要項に、この能力の中から重点的な目標を決めています。春の球技大会では、1番目の「強さ」の中で、自ら進んで大会に参加をして盛り上げることができる「行動力」とか、2番目の「優しさ」の中で、自分のクラスのチームワークをしっかりと作ることができるとか、対戦相手の他学年ともしっかり交流できるといった目標が要項にきちんと入っています。

全ての行事こういう形で取り組んでいますので、県下の校長が集まる研修などで、このグランドデザインを披露すると、人間性のこの部分を分かりやすくしているという評価をいただいております。

これを基本として学校運営を行っております。

続いて2枚目をご覧ください。4月、5月の学校の取り組み状況を掲載しております。

一番左下に5月30日のソトナカIBARAプロジェクトのボランティア活動の様子を載せております。

これは地域学校協働活動推進員の方のご縁で、社協の事業のボランティアをさせていただいて、パンフレットのイラストも本校生徒が書いたものをそのまま使っていただくなど、社協と協力関係が進んでおります。

それでは次の8月1日に発行した26号です。ここで第1回の学校運営協議会の内容が出てまいります。今年は2年目ですが、学校の状況について、全て生徒がプレゼンをして委員の方に説明しております。その中で「働く」ということをテーマに、委員の皆様と生

徒・教員でグループ協議を行いました。時間が足りないということで、委員の方から再度開催してくれないかという要望が出るぐらい盛り上がりました。

生徒の方もぜひもっと話したいということで、ちょうど1か月後にクリーンサービスイバラとホンダカーズの社長さんの2人が来てくださって延長戦を行いました。この時には両社から社員の人も参加していただき、社長の気持ち、社員の気持ち、そういったことも含めてお話をくださって、生徒は非常に学びがありました。会社の社員の方も社長さんも、今どきの高校生の気持ちを聞けたということで、喜んでくださり、お互い非常にウィン・ウィンの会議ができたと考えております。

次のページをご覧ください。

ここにレモネードスタンドを載せております。これは毎年取り組んでいることですが、レモネードを販売して、売上金を小児がんの啓発活動に協力するというので、暑い中でも地域の方々や大勢の方々に参加いただいて非常に盛り上がりました。

次のページをご覧ください。

今年のコミュニティスクールのキーワードは「挑戦」ということで、コノヒトカンプロジェクトに挑戦をいたしました。

コノヒトカンプロジェクトというのは、元々は食品廃棄物として捨てられていた肉や魚をそれぞれ缶詰にして、何か生かせないかという食品ロスをなくす活動で、一般社団法人コノヒトカンがコンテストをされまして、それに本校のNさんが挑戦して、アイデアを出したところ、岡山県全体で55チームが参加する中、見事トップ3に入る「地域の未来デザイン賞」に選ばれ、200缶いただけることになり、実際に学校で食が乱れている生徒たちに昼食を何とか作りたいということで、実際の活動に移っていくというような挑戦をしました。

それから他の本校生徒が、絵本の読み聞かせに挑戦ということで、隣の井原小学校との連携で、1年生と2年生のクラスに行って、絵本の読み聞かせをさせていただいたところ、小学校の子どもたちが非常に喜んでくれて、本校生徒は自己肯定感を高めて、人の役に立つっていうのはこんなにいいことなんだということで、ウィン・ウィンで良い体験をさせていただきました。

次のページをご覧ください。

8月9月の活動として、井原小学校児童に陸上競技部の生徒が指導に行ったり、フクロチカラプロジェクトとして、ユニクロを運営するファーストリテイリングと協働で、世界の困っている子どもに、子ども服を回収して送る活動を行ったりしました。

次のページをご覧ください。

先ほどのNさんの挑戦を「みんなの給食室プロジェクト始動」として協力する生徒もたくさん出てきて、コーディネーターの方にもご協力をいただいて、何回か生徒にふるまうことができました。

その下に第2回の学校運営協議会のことを記載していますが、ボランティアの子どもたちが缶詰を活用したメニューを作り、協議会が始まる前に試食をしていただくといった、協力体制ができました。

それで、第2回のテーマは、ボランティアについてできるだけ協議の時間を多くとりながら開催をしました。素晴らしい、あったらいいというボランティアはどういうボランティアなんだろうとか、どんなボランティアだったら自分たちが参加したいんだろうとか、これも非常に盛り上がりました。

次のページをご覧ください。

左下ですが「企業人に学ぶ」ということで先ほどのクリーンサービス・イバラの社長さんが、全校生徒に対して、社会人になるために身に付けておくべきことについて具体的なお話をしてくださりました。これも学校運営協議会があつての機会であつたと思います。

次のページをご覧ください。

「広がり」ということでまとめております。去年の学校運営協議会で市立高校の強みは何かというときに、アルバイトができる、推奨している学校ということが提示されておりまして、そうしたことを受けて、子どもたち全員にそのアルバイトの大事なこととか、どういった学びがあるかということを広げようということで、今年は「アルバイトロングホームルーム」を全学年合同で行いました。

それから、学校運営協議会委員のお二人の社長さんに来ていただいて、2年生に働くことはどういうことなんだろうということで広めていただいたというのが真ん中の段です。

それから、資料は実施前ですが、つい先日の金曜日に実際に地元5社、(株)クリーンサービス・イバラ、鳥越紡績(株)、ホンダカーズ井原、黒崎花店(株)、(株)カタオカから若手社員の方に来ていただいて、3年生を5つのグループに分け、それぞれに入っていました。

最初はこの5人の方も高校生とうまく喋れるんだろうかと心配もあつたと思いますが、終わってみると、もう本当に高校生と交流させていただいて良かったと皆さんウィンウィンで、素晴らしい交流会ができました。

最後のページです。

ここにつきましてはその後、一般社団法人コノヒトカン代表の三好さんに授業をしていただき、いろんな連携をさせていただいたということ、本の読み聞かせをもう一度小学校でさせていただいたことを紹介しています。

このように、学校運営協議会を通じてどんどん外部の皆様との繋がりが広がっていき、今後も社会に開かれた学校づくりをしていきたいと思っております。以上で簡単ですが、市立高校の取り組みでした。ありがとうございました。

<市長>

ご質問、感想がございますか。

<奥田委員>

Nさんは、すごいパワーというか、エネルギーを持って、それを他の友達にも広がっていき、素晴らしいなと思うんですけど、何かきっかけがあるんですか。

<市立高校長>

ひとつり事業アドバイザーの岡田さんにサポートに入ってもらっているんですけど、本当に寄り添ってくださって、いろんなサポートをしてくださったというのが一番大きいかなと思っております。

<奥田委員>

Nさんのようなそういった活動が、学校だけでなく地域にも広がっていくといいと思います。ありがとうございました。

<服部委員>

私も昨年度、学校訪問の際に前任の校長先生からこのグランドデザインの説明をいただいて、視覚でよく分かるし、12の要素が並んでよくわかると思います。

中学校にはなかなか行けなかった子が、市立高校では楽しく通学しています。音楽の授業の学校訪問に行かせていただいたときに、ある生徒が吹奏楽をしていたということで、先生が促して、みんなの前でその子に自分のトランペットを吹かせ、他の生徒からは称賛の拍手を受けました。その時の本人の笑顔を見ると私も目頭が熱くなりました。結局人と人とですから、教員の皆さん一人一人が本当に熱心に真摯に取り組む向き合っておられ、その結果、いろいろなこういうプロジェクトや企画ができているのだと思います。引き続き、子どもたちに熱心にサポートいただきたいと思います。

それから、地域の皆さんとつながるコミュニティスクールの好事例ではないかと思しますので、しっかり周知していただけたらいいかなと思います。

以上です。

<芳井中学校長>

芳井地区では、今年から運営協議会をスタートしたところですが、市立高校は2年目ということで、本当に深みのある取り組みをされてるなと感じてるところです。しっかりと理念を持って、学校教育の中に位置づけられているということが、すごく参考になりました。

<芳井小学校長>

今お話を伺って、地域の方が学校運営協議会を通してどんどん入ってきてくださったり、子どもたちが出向いて行ったりされているなと感じました。私達は運営協議会の方が、すごくサポートしてくださった感はあるんですけど、地域に広がっているかというところ、まだまだだなという感じがしました。

これからはいろいろと教えていただければと思いますのでよろしくお願いします。

<藤井代理>

市立高校は、卒業後の就職、社会人としての活動を考えたときに、コミュニティスクールによって、市内のいろんな企業の方との接触が多くなり、子どもたちの意識付けが強くなっていくかなという感じですが、そのあたりいかがですか。

<市立高校長>

先日の金曜日に来てくださった若い社員の皆さんも本当に来てよかったと言われてまして、社長さんたちも、この若い社員の気持ちをどこかで出す機会が欲しかった、今回はいい機会になってると思いますというふうに言われていましたし、若い社員の人たちも本当に高校生と話せてよかったということで帰っていただき、ありがたかったと思います。

<藤井代理>

社会人と高校生が、仕事に関して会話することはそんなに機会がないと思うので、いい意識付けにもなるいい取り組みだと思いますので、継続して取り組んでいただけたらと思います。

<西田委員>

思いあふれる説明を聞いて胸が熱くなる思いでした。市立高校のグランドデザインというしっかりした柱があるから、いろんなことがつながっていているのかなと思いました。生徒が地域に出ていき、地域の人とも学校に関わられていて、資料のそれぞれの写真にいろんな背景があって、それぞれの生徒さんが、それぞれの羽ばたき方をしている場になっていて素晴らしいなと思いました。

<教育長>

市立高校の場合は、社会への出口という絶対的なミッションがあるわけで、そこへ向けて、子どもたちが社会の中でどう生きていくのかそういったことを本当に社会人から学んでいる。

それから、逆に小さい子どもたちと関わることで自信を持つ、そういう取り組みにこの学校運営協議会の取り組みがうまくリンクしていると感じました。

<市長>

市立高校の取り組みを聞くといつも感動します。

コノヒトカンの三好さんの話も出ていましたが、何か物事をするときに、心が動かないと、行動に移れない、知識では動かないといつも言われてました。

こういった何かをやろうとしたきっかけを学ぶとか、なぜ行動したかということの学びというのはすごく大切なんですけど、そういった知識だけではない部分を学ぶことは、すごく素晴らしいなと感じました。ありがとうございました。

それでは、続いて芳井地区の事例発表をお願いします。

③芳井地区での事例について

<芳井中学校長>

芳井地区の学校運営協議会の紹介をさせていただきます。

芳井地区では、小中学校の繋がりが深いということで、この学校運営協議会を設置するに当たりまして一緒にやっていくというのが自然な流れでした。

まず、この学校運営協議会をスタートするにあたっての基本的な考え方についてなんですけど、これまでも学校と地域の連携を行う上で重要な役割を果たしてきた学校評議員制度というものがありません。

この学校評議員は、開かれた学校づくりのために設けられた制度で、評議員は校長の求めに応じて意見を述べるのが主たる役目ですが、学校の外からの意見ということで、学校運営に対して強い権限を持つものではありません。

またこれとは別に、井原市には、地域学校協働活動を推進するための組織、ひとづくりネットワーク運営協議会というものがありませんが、芳井地区では小中合同で芳井地区ひとづくりネットワーク運営協議会というものを設置しておりました。

このひとづくりネットワーク運営協議会は、地域とともにある学校づくりであり、地域全体で未来をつくる子どもたちの成長を支えること、これが大きな役目となっております。

そこで、このたび学校運営協議会をスタートさせるにあたっては、一から新しい組織を作るというのではなく、ひとづくりネットワーク運営協議会を母体としつつ、そこに学校評議員の方が果たしてきた役割も取り入れながら、地域の方々が当事者意識を持って学校運営に携われること、そういった組織を立ち上げることにしました。

一番難しいと思うのは、いかに当事者意識を地域の方に持っていただくかということで、これからも大きなテーマかと思っております。

この組織を有効に機能させることで、地域とともにある学校づくり、地域の特色を生かした学校づくりを目指していきたくと考えております。

まずスタートするにあたって、最初の課題は、誰にこの委員をお願いするかということだったのですが、元々、ひとづくりネットワーク協議会を母体としおり、さらに学校評議員の役割を担うということから、昨年度までのひとづくりネットワーク運営協議会並びに学校評議員の中から人選していくという形で進めております。

メンバーの一覧を載せておりますが、丸印がついているのは、ひとづくりネットワーク、そして評議員をされていた方で、昨年度それぞれ委員をされていた方ということです。

米印がついているところは昨年度までの方とは違う新しい方で、主任児童委員の方などがこちらになります。

それから黄色で色をつけているところは、これは小学校中学校それぞれのPTA会長ということで、基本的にこの2人については、毎年更新という形になりますが、それ以外の方につきましては、原則、同じメンバーでやっていくという形になってます。

小学校中学校の校長は、3年とか4年とかで変わっていきませんが、この取り組みをしっかりと地域に根づかせていくためには、地域にしっかり土台を張っていかなければいけないということで、こういった方々に継続して委員をお願いすることになっております。

それから、この学校運営協議会と地域を直接繋ぐ役目になるのが地域コーディネーターという役割なんですけど、昨年まではひとづくりネットワーク協議会で1人しかいなかったのですが、かなりの負担をかけていたというのがあり、今回、学校運営協議会をスタートさせるにあたって小学校担当2名、中学校担当2名で、計4名でコーディネーターの方もお願いをしています。

まず第1回目の会合を持ったのは5月でした。

この会議では委員となられる方々に任命書の交付を行い、次に会長副会長互選で選んでいただきました。

そしてこの会が目指す子ども像や目指す地域像といったものを確認し、さらには学校経営計画書の承認を行っていただきました。

この会は小学校会と中学校部会に分かれていますので、全体会の後一旦部会にわかれて、それぞれの学校の様子を見ていただきました。

そして引き続きそれぞれの部会ごとで今年度の活動について協議を行いました。

そして、最後は再び全体で集まり、情報共有を行うとともに、実際に今年何をしていくかというのを相談しました。

その中で、例えば中学校からはですね、教員の負担軽減と生徒の学力保障、これを目的としまして、放課後学習の支援を地域の方にお願いしたいという案が出されました。これはどういうものかといいますと、中学校は、定期考査の1週間ぐらいは、テスト期間ということで、部活動の活動を停止します。

その代わり本校では、希望者をランチルームに集めてそこでテスト勉強するようになっています。

そのとき教員も一緒にいて、子どもたちから質問があれば、それに対応しているのですが、教員にとっては、本来であればテスト前ですから、テスト問題を作りたいところですけど、生徒たちがそこにいるのに問題を作ることはできない。

そういった事例がありまして、もう放課後学習はやめてしまおうかという意見もあったのですが、それをやってしまうと、せっかく残って勉強したいという子どもたちの気持ちをそいでしまうことになるということで、せっかく今年学校運営協議会をスタートするので、こういうところに地域の方の力を借りれないかということで話をしていました。

これが実際に行われている放課後学習の様子ですが、まずは学校運営協議会の委員の2名の方がご協力いただきました。

実際にはもっとこれを広げていきたいところではありますが、中学生の学習を見ると、少しハードルが高いこともありまして、委員の方以外には広がっていないというのが、今後の課題となっています。

続きまして、第2回目の学校運営協議会を6月末に実施しました。

第1回目の会合の際に、学校運営協議会の存在そのものがまだ地域の中で十分周知されていないだろうという意見が出ていましたが、ではどうやってPRしていくか、その場でなかなか案が出なかったので、1ヶ月後にもう一度集まって、この件について話をしましょうということで、第2回目の会議を行いました。

SNSですとか、学校のホームページなどを使ってPRをしたらどうかという案もあったのですが、芳井地区は、高齢者の方が多いということで、口コミで伝えてもらうのが一番成果があるのではないかということで、口コミ戦略をしようということになりました。とは言っても何もない状態で紹介する、説明するのは委員の方たちも難しいということ

で、何かそのチラシのようなものでもあればいいと話が出まして、それでは学校運営協議会としての便りを作ってみたらどうかということで、これは芳井公民館長さんがやりましょうということで手を挙げていただきまして、お願いをしました。

またこの他には、資料に示してありますように、中学校ではゲストティーチャーをお願いしとか、夏休み中に現地研修をしたいとか、8月、9月に保守作業といったものを地域の方と一緒にやっていきたいというような案が出ました。

こちらの写真はゲストティーチャーの様子で、国語の書写の時間ですが、本校の多くの教員は採用1年目、2年目とキャリアも浅く、書写の指導に関してはあまり自信がないということで、ゲストティーチャーに来ていただいて授業をやりました。

各学年で2時間ずつということで、計6時間書写の指導をしていただき、教育の方は大変助かったと、それから自分自身もその先生方から教えていただいて、少しずつ力をつけてやがては、自前でしっかりと指導していきたいというようなことも申し上げました。

次は8月20日の夏休み中の小学校PTAの奉仕作業の様子です。小学校では2学期の新学期に向けて夏休み中に環境整備を行っていますが、今回は学校運営協議会の方から地域の方へ参加を呼びかけていただき、約20名の方が参加をしてくださいました。特に、溝に流れ込んだ土砂をすくう作業は、かなりの重労働ということで、地域の方々が自前の道具を準備してくださったおかげで、大変スムーズに作業ができたと聞いております。このPTA整備作業の呼びかけの際に有効だったのが、先ほど紹介しました学校運営協議会便りです。

こちらを各委員の方々が、それぞれにいろんな会合とか出ていく場面がありますので、そういった場で、今年から小中学校でこういう取り組みが始まっていること、早速小学校では、地域の方に力を貸してほしいんだというふうなことを説明していただき、その甲斐あって約20名が参加していただいたところです。

続きましてこちらはこれも8月の終わりなのですが、現地研修の場面です。

当初は小学校の教職員を対象にとして、地域学習を行っていく上で、教職員が地域のことをもっと知っておくことが必要だろうということで、企画されたものなのですが、これを聞きまして、これは中学校にも当てはまるものなので、ぜひ合同でさせてもらえませんかということで、実現したものです。

この現地研修は小・中の教職員以外にも、学校運営協議会の方もたくさん参加していただきまして、ここで協議会のメンバーと教職員が親睦を深める場にすることができたのは非常に大きな成果であったように思います。

続きまして第3回目の協議会は9月1日に開催しました。

この際には、小中学校がそれぞれ現在抱えている課題を学校運営協議会の委員の方たちと共有し、その解決策を検討することを目的として開催しました。

小中とも共通する大きな課題は学力向上です。これは全国学力学習状況調査の結果など客観的なデータをもとに、小学校中学校が置かれている状況というものを把握しました。

また中学校独自の課題としましては、生徒数の減少、それから担当教員の過重負担による部活動存続が困難であることを地域の方々に知っていただいて、今後の部活動の地域移行を学校だけの課題ではなくて、地域全体の課題として一緒に考えていきたいと思いますということをお伝えさせていただきました。

こうした協議の中から、小学校では地域の方に朝学習に参加してもらおうという話がありました。これにつきましてはこの後詳しく説明したいと思います。

こちらは9月の中学校のPTA奉仕作業の様子です。

中学校では、例年夏休み中に奉仕作業を設定していましたが、今年度は体育大会が10月に実施されるということで、その約1ヶ月前に奉仕作業を実施することにしました。小学校と同様に、学校運営協議会を通じて地域で呼びかけをしていただいたことで、学校と保護者と地域との三者で協力しながら環境整備を行うことができました。

中学校の方も約20名の方が参加してくださり、おかげでさまで気持ちよく体育大会を迎えることができました。

こちらが小学校の朝学習の様子で10月からスタートしております。

協力者として6の方が登録してくださっていますが、うち4人は学校運営協議会以外の一般の地域の方で、このあたりは小学校と中学校の違いなのかなということで、中学校でもぜひ学習支援の方に参加していただけるような取り組みを来年度実施していきたいと思っております。

11月には第4回目の学校運営協議会を実施しました。

この学校運営協議会の主な役割の中に、学校運営や教職員の任用に関して意見を述べるということがあります。ただそのためには、学校が抱えている課題ですとか、学校の実態というものをしっかり知っておかなければ、情報の出しようがありませんので、それぞれの校長の方から学校の様子をお伝えさせていただきました。

現在の大きな課題としましては、一つはやはり学力向上、それから特別支援教育の充実、教育課程の見直し、教職員の働き方改革、そして更なる地域人材の活用、こういったことが、学校が考えている課題であるということで、それぞれについて委員の方からも意見などをいただきました。

委員の方からこういったことを知ることはもちろん大事だが、今後は、一つ一つのことについてもっとしっかり時間をとって、解決のための手立てを考えていく場面が必要だろうという意見もいただきましたので、来年度は反映させていきたいと思っております。

最後になりますがこちらは、先月、中学校で行った生徒会活動発表会の様子になります。

この日は、前半として、人権集会というものを行ったのですが、今年初めての試みとして、PTAの人権教育研修会を中学生の人権集会と、タイアップして行うことにしました。

例年は中学生は中学生、保護者は保護者で別々に行ってました。特に保護者の方は、講師の方を招く形で実施することが多かったのですが、それだけではなくて中学生が実際に人権についてどんなことを学校で学んでいるのか、それを保護者に知ってもらって、例えば家に帰って、真剣にことについて親子で話をする機会が増えれば、さらにありがたいということで行った企画です。

この場にも学校運営協議会の方にも参加をしていただきました。

そして後半の生徒会活動発表会では、今年度は中学生が校則について考えるという場面を設定しました。この場に保護者の方、それから学校運営協議会の方も一緒に入っていたいて、校則について、それぞれの立場からの意見を聞きながら話をしていただきました。今後、さらに学校の方では生徒会を中心に校則改定について話し合いを深めていきたいと思っております。

以上が今年度、芳井地区として行った学校運営協議会の取り組みであります。こういったことを地域の方に知っていただくために、学校運営協議会だより第2号第3号までを現在発行しており、近々第4号を発行する予定にしております。

そして今週末、今年度最後の学校運営協議会を実施する予定にしております。事前に取り組みについてのアンケートを、委員の方には回答していただいておりますので、それに基づいて1年間の取り組みを総括するとともに、来年度の取り組みを協議することとしております。

アンケートの全ては取りまとめができておりませんが、記述式で得られた回答の一部を紹介したいと思います。

まず成果としては「学校への地域の人たちの関心が深まった。」「ふれあいが増えていろんな面で人生が豊かになった。」これは参加された委員の方が、自分自身がすごく生活が豊かになったと言われました。これはもう本当にありがたいことだと感じております。

それから「こうした取り組みを通して、地域の方々に子どもたちの顔、子どもたちの成長が見えることは、地域の活性化にも繋がる」という意見がありました。

また課題としましては、「自分以外にも地域の方に広げるという部分では難しかった。」「父兄のニーズを運営協議会が把握しているとは思えない。」ということで、やはり地域の声をしっかりと拾い上げながら、そして今度は地域の方々に広げていくということを来年度の課題としていきたいと思います。

また来年度に向けての提言ということで、最初に説明がありましたように、市立高校の方は生徒が中に入って一緒に活動しているところが素晴らしいと思ったのですが、我々はそこがまだ十分できてませんので、子どもたち自身が、いろんな発言の機会や提言できる環境を作っていくような取り組みをしていきたいと思います。

それから、保護者や教職員の方々の意見だけでなく、例えば大学の先生など外部からこの取り組みについての客観的な評価をいただきたいという声もありました。

それから小学校から中学校へのスムーズな移行のためにできること、学習のこと、生活部活動、こういったことを協議会において、話し合ったらという意見もありました。

こういった案を皆さんと共有しながら、今週末、最後の協議会を開催したいと思います。以上です。

<市長>

ありがとうございました。それでは委員の方から質問、感想などをお願いします。

<藤井代理>

美星地区も来年度から、同じように小中合同での設置に向けて準備をしているところで

す。やはり芳井地区と同じぐらい会議を重ねることが必要だと思ったことと、ひとづくりネットワーク活用しての、学校運営協議会づくり必要だなということを実感しました。

地域にどうPRしていくかという部分も、今でもひとづくりネットワークの存在がなかなか知ってもらえていないところで、一応各自治会の方に冊子を学期末ぐらいに配っているけれども、なかなか、見ていたらどうかっていうのがわからない点があり、美星でもそういったところが課題になるかなと感じております。

<西田委員>

私の青野地区も学校運営協議会を設置していくことになりましたが、聞かせていただいて進め方の参考になりました。地域の声として、子どもたちの顔が見えない、わからないことがあって、今後学校運営協議会が、地域と学校がよりよく関わっているきっかけになるといいと思います。

人生が豊かになったというアンケートの意見があったということはとてもうれしいことだなと感じました。

<市立高校長>

先ほどのように人生が豊かになったということをおっしゃったように、一歩踏み出してみると、そこから開けるものがたくさんあるので、我々もこれからも積極的に、止まらずに一人でも多くの方々との交流が持てるような形を模索し続けたいと思っております。いろいろ勉強になりました。ありがとうございます。

<奥田委員>

非常に参考になったなと思っております。私も高屋小学校で今年度から委員として参加させてもらっておりまして、やはり一番ポイントになると思うのは委員一人一人の当事者意識ではないかと思っております。これまでは評議員としての立場で、言いつばなしで終わってしまった部分があるが、今年からは運営委員としての立場で、言ったことについて話し合っていて、それで決まったことに対しては責任を持って行動を起こさないといけないということが大きなポイントかと思っております。そのあたりが委員さんごとに温度差がどうしても出てくるから、それを上げていくというのが大きな課題だということをおもいました。

もう一つは、すごくお聞きして感じたのがPRで、便りをちゃんと作られて、全戸配布されているという点で、高屋も学校だよりを出しておりますが、地域の人たちへどう広げるか、もっと考えていかなければならないと思っております。

<服部委員>

いろいろ手探りでされたと思うんですけども、保守作業なんか大勢の方がご参加くださったということに大きな意義があると思っております。前々回のこの会議でも申し上げましたが、このコミュニティスクールは学校のためでもあり、社会教育でも大きな意味があると思っております。事例なんですけども、私の前任の教育委員をされていた佐藤さんが、まちづくり協議会の活動で「GO to 芳井」というイベントで芳井のいろいろな地域を訪ねるなど、いろんな活動を子どもたちにされています。定年退職した方で結構手先が器用で、竹細工を作ったり、いろいろな彫刻をしたりする技術を持っているということを佐藤さんが聞いて、そのイベントで、その方の家を訪ねられ、いろいろ子どもと一緒にいろん

なものを作る遊び活動をされたということをお聞きしたのですが、地元の方々には潜在的にいろいろな能力を持っている方がおられると思いますので、コーディネーターを中心に、いろいろな方のそういう能力が生かせる場が、このコミュニティスクールで実現できるのではないかと可能性を感じています。

学校教育もう限界があるし、社会教育も限界があると思いますけれども、それが一緒になることで、限界突破といいますか、また新たな可能性や、いろいろなことが実現できるのではないかと。その大きいところの第一歩が、今回住民の方が大勢参加されていますので、非常に心強く思った次第です。

<教育長>

学校運営協議会で議論して取り組みを決めていくというところで、学校が今どういうことを課題にしているかということ糸口に、活動の方向とか、そういうのを考えられている。とても現実的だし、それが学校運営の成果に繋がっていると感じました。

<市長>

校長先生としては、この会議を1年やってどう感じておられますか。

<芳井中学校長>

それまでは地域の方に何かお願いするとか、または地域から依頼されて、こちらがしてあげるといった感じでしたが、学校運営協議会をすることによって、一緒にやりましょう。してもらうのではなくて、もう一緒にしましょうっていう意識が自分の中でも変わっていきまして、それから、委員の方々と話をする中でも、自分が当事者になってやらないといけないとすごく感じた、という話もあって、すごく意識を変える大きなきっかけになったとすごく感じてます。

<芳井小学校長>

小中の連携の一層の推進と、地域との連携の一層の推進をやっていこうということで、学校運営協議会を導入したのですが、その意識は職員の方にも強く浸透していると感じます。

この前初めて、小中合同で総合学習の合同授業をしたのですが、その運びとなったのはこの機運で小中連携を進めていこうというのを、職員も意識して授業作りを進めているのかなと思います。

その授業を学校運営協議会の方にも案内して、見ていただいて、意見をいただいたのでいい流れを作って、これから先も進めていきたいと思います。

<市長>

ぜひ、今言われたような感想や意見をしっかりまとめていただいて、多くの人と共有していただくことが大切かと思しますので、このアンケートと同じように、学校現場としての教職員なり校長先生の意識が変わったところであるとか、その感想というものを文字にして残していただきたいと思います。

コミュニティスクール全体について委員の皆様方、ご意見ご感想などございましたらお願いします。

<西田委員>

小中一緒ということで、1年間されて、やりやすいこと、やりにくいことがありましたか。

<芳井中学校長>

会議を持つにあたって、小中連携で全体で話し合いたいことと、小学校部会、中学校部会それぞれの特質がありますので、その部会で話し合いたいことのさび分けがなかなか難しかったなと思います。

限られた時間の中で、計画的に効率的にその会議を進められるようにしていかないといけないなというのは感じました。

ただ、小中連携をしていこうという大きな目的は、すごく大事なところなので、そこはぶれないようにみんなでやって行きたいと思っています。

<芳井小学校長>

元々ひとつづくりネットワークの段階から小中合同でやりましたので、他の地域よりはやりやすかった面もあったのですが、これをすることによって、管理職だけでなく、一般の先生方も小中で何かできることがあるのではないかと、下から意見が上がってくる。それはすごく大きな成果ではないかと思っています。

<藤井代理>

小学校、中学校で部会があるということですが、時間的な面でやはり区分けしようということにですかね。学校運営協議会で、全体で同じように協議してるのかなと思ったりもしたのですが。

<芳井中学校長>

時間というよりは、まず全体で話をして、細かい具体的な活動、取り組み内容については一緒にするよりも分けた方が、効率がいいとか、そういう意味では時間ということもありますが。最後はもう一度集まって、それぞれどういう話をしていたかということを共有する場面は設けてます。

<藤井代理>

ありがとうございました。参考させていただきます。

<奥田委員>

教職員が、この学校運営協議会というものをどのように見ているのかというのがちょっと気になるのですが、働き方改革への解決の一つの手段としてこれが回っていけば、教職員も今までの超過勤務の時間が少しでも減ったとかいう形になれば、さらにエネルギーが回ってくるのではないかと思います。そのあたりの、持って行き方ですよ。最初なかなかすぐにポンポンとうまく行きにくいと思いますが、学校運営協議会で話し合っ、学校でしかできないことと、それからこれ地域のことを地域の方でやってもらってもいいのではないかという、そのあたりをうまく話し合いの中で整理して、本質的に学校でしかできないことにもっともっとエネルギーを加えていけるような方向へ持って行けたらいいなと思うのですが、その辺のところのポイントは何かありますか。

<芳井中学校長>

先日、学校内で来年度の課程についての会議をしたのですが、その中で一人一人が地域と一緒にあって連携して何かできることを考えてみませんかという提案を教務の方から出してもらって、例えば先ほどのゲストティーチャーで、書道の指導をしてもらったことについて、その教員がどう感じたかというのを教職員みんなの前で、安心してお任せできたし、自分自身が勉強する機会になったということを言ってくれました。やはり関わった者たちが、その良さをこのように伝えていくっていうのはすごく大事だと思います。その場でそれぞれ自分の立場で何かできることはないか少し考えてみると、技術の正規の教員がおらず、体育の教員が技術を教えているが、正直自信がないと。木材加工であったりとか栽培であったりとかそういうところで来年度、地域に声かけて手伝ってもらおうか、みたいな話を聞いたりしまして、やはり一人一人自分ごとに置き換えて考えていくと、何かしらできることが出てくるのではないかなと。それによって、働き方改革に繋がっていく。そういったチャンスは今後増えていくと思っています。

<奥田委員>

いいですね。授業に参加してくださるというのは。でも、中学校のレベルであればある程度教員のOBであるとか、そういう経験のある方であればいいですが、一般の住民にとってはなかなか難しい点もありますよね。小学校の方で何かあったらお聞かせ願えたらと思います。

<芳井小学校長>

直接働き方改革となると、あの整備作業は、本当に助かりました。朝学習に関しては、そこで子どもたちが例えば2年生だと、地域の人に九九を聞いてもらって、できたらシー

ルをもらって褒めてもらえるということをやったのですが、朝の時間だけではなくて、そこに向けて子どもたちも一生懸命九九を覚えて、地域の方に聞いてもらおうという、その人間性のもと、関係性のもとに頑張って取り組みを進められたっていうことは、教員にとっては学力向上という大きな一つの共通課題に、成果を感じられていると思います。そういうお互いに良かったなっていうものがあると、働き方改革とかその意識の上で負担軽減、意識軽減ということにも繋がるかなと思います。

<市長>

学校運営協議会の取り組みについて、今日はこの総合教育会議で成果発表いただきましたけれども、各学校間での発表とか、取り組みなどの情報共有という場はありますか。

<教育長>

園長会で、こういった情報共有をしておりますので、来年度、一度に多くの学校が導入しますけれど、おそらくそういった手順っていうかね、そういうものを参考にして来年度へ向けての取り組み、を始める組織作りとかを進めてくださっていると思います。

<市長>

もう一つ視点を間違っはいけないのですが、学校ではなくて地域が主で行うべきものなので、校長先生の立場でいうと評議員は学校が招集されていますけども、さっき言われたように、情報共有は地域と一緒にやってもらいたい。委員さんと一緒に学校の先生だけが共有するのでは駄目だと思ってますので、そういう意味で委員さんたちが他の地区の情報を共有できる状況でないと、意味がないと思ってますので、ぜひできる場をどこかで設けていただきたいと思います。今やっていることが自分たちの地域だけでなく、それぞれの地域の共通課題になってくると思いますので、そういった視点でぜひお願いしたいと思います。

それでは（２）その他について

（２）その他

——— 生涯学習課 藤井参事よりオンライン講座の紹介 ———

<総務部次長>

それでは閉会にあたりまして、伊藤教育長からごあいさつをお願いいたします。

<教育長>

本日は第1回の井原市総合教育会議ということでさまざまなご意見をいただき、本当にありがとうございました。特に井原市立高等学校、それから芳井小中学校の方には、取り組みの発表していただきまして本当にありがとうございました。

先ほど来、話も出ておりますが、令和4年度に市立高校がまず導入をされ、市立高校のコミュニティスクールっていうのは、いわゆるコミュニティが井原市全体で、その中から人材を選んで、井原市立高等学校の学校運営に協力していただく人を組織しましたが、今度は義務教育の方は、地域が決まっていると、そういった中での取り組みというようなことの少し違いがあるのかなというようなことも感じているところです。

先ほどの昨日のまちひとフェスタの中でも、いわゆるまちづくりの部分の中心に、いわゆるひとづくりを位置づけているというような例もありましたし、来年度はコミュニティスクールへ移行しようと思っているというような話もありました。

今日いただいたような意見を今後、そういった来年取り組む所にもぜひ情報共有しながら進めたいというふうに思っております。

本日はありがとうございました。